

『人間開発報告書』2014年版の発表会を日本で開催

01



安倍総理に『人間開発報告書2014』を手渡すクラークUNDP総裁(右から2人目)。マリクUNDP人間開発報告書室長(右端)、田中JICA理事長(左端)



日本が防災分野で支援しているペルーの国家緊急オペレーションセンター

開発協力に関心がある人にはおなじみの『人間開発報告書』。世界で人間中心の開発を普及・推進するため、国連開発計画(UNDP)が1990年以降、毎年発行しているものです。先進国を含む各国の開発の度合いを測定する「人間開発指数」を発表し、その時々の国際潮流に沿ったテーマを分析しています。

2014年版のテーマは、「人々が進歩し続けるために…脆弱を脱し強靱な社会をつくる」。日本は度重なる自然災害を乗り越え、国際社会で防災分野の協力をけん引していることから、この国際公式発表会のホスト国を18年ぶりに務めることになりました。7月24日、会場となった国連大学本部ビル(東京・渋谷)には350人以上の参加者が集まりました。

最初に登壇した安倍晋三内閣総理大臣は、社会の強靱性の柱となる防災分野について、国際社会やUNDPと連携しながら日本の知見や技術を最大限活用して貢献していくことを表明しました。続いてヘレン・クラークUNDP総裁は、「防災と人間の安全保障に関して、世界的なリーダーとして認知されている日本で発表会を開催できることをうれしく思う」と述べ、来年3月に宮城県仙台市で開催される第3回国連防災世界会議についても言及しました。

同報告書作成に助言を行うアドバイザリー・パネルに参加している田中明彦JICA理事長は、「開発途上国の現場に身を置く中で、持続的な発展のために脆弱性や強靱性と向き合うことは不可欠と感じている」と述べました。その上で、ミレニアム開発目標(MDGs)が終了する2015年以降の開発目標では、社会的に脆弱な状況にある人々に対する配慮や、紛争や自然災害などのリスクに備える視点が必要と指摘しました。JICAはこれからも途上国の強靱な社会づくりに貢献していきます。

国連人道問題調整事務所と連携強化

02



署名を終えて握手を交わすエイモス人道問題担当国連事務次長(左)と田中JICA理事長

イラク、パレスチナ自治区、シリア、南スーダンなどでは、近年、長期化する内戦や紛争、頻発する大規模自然災害により、人道支援の必要性が強まっています。そこで7月23日、JICAと国連人道問題調整事務所(OCHA)は、新たなパートナーシップに向けて業務協力協定を締結。田中明彦JICA理事長と、訪日中のヴァレリー・エイモス人道問題担当国連事務次長兼緊急援助調整官が署名を行いました。

両機関は、特に開発途上国の災害対応能力の向上に向け、災害対応を担う政府機関への支援、緊急援助への貢献、援助調整への積極的な参加などを共に支援していきます。田中JICA理事長は、「この連携により、人道支援と開発援助のつながりが強化され、切れ目のないより効果的な支援が実現できると信じています」と述べました。

「世界の笑顔のために」プログラム物品募集中

03



ガーナの子どもたちに届けられた鍵盤ハーモニカ

もう使わなくなってしまったけれど、まだ使えるような物が家に残っている方はいませんか。

教育、福祉、スポーツ、文化など分野で、開発途上国が必要とされている物品を日本で募集し、JICAボランティアを通じて各国に届ける「世界の笑顔のために」プログラム。個人でももちろん、学校、企業、地域など、さまざまな形で参加できます。

なわとびや書道用具など、あなたの身近にある物が国際協力の一歩になります。たくさんのご応募をお待ちしています。

【参加申込書受付期間】10月1日(水)～11月14日(金)

【問い合わせ先】青年海外協力隊事務局「世界の笑顔のために」プログラム係

【TEL】03-5266-9196

【URL】www.jica.go.jp/partner/smile/